

創刊の辞

福祉社会教室

社会福祉学研究を通して、地域社会、社会福祉現場に貢献することを目的に、「島根大学 社会福祉論集」を創刊する。

島根大学教育学部に福祉社会教室が開設されたのは、1999年4月であった。教育学部改組にともない、2004年4月に、法文学部社会文化学科に移設された。

教育学部福祉社会教室では、開設後間もない頃に「福祉文化研究会」を立ち上げ、2年後には、「福祉文化」創刊号を発行した。同誌では、人文・社会科学系の多様な学問分野から、福祉文化にアプローチするというユニークな研究成果を発表してきたが、第5号（2006年度）をもって終刊となった。

法文学部福祉社会教室の目標の1つは、山陰地域における社会福祉活動・教育の拠点を形成することである。本論集は、そのための重要な仕掛けとなるべく、多くの方々に開かれたものとする。「福祉文化」と同様、社会福祉学や関連領域の研究に携わる島根大学教員や院生らの研究成果を公開する。また、社会福祉現場や地域社会で、社会福祉専門職、ボランティアなどとして活躍されている方々に、調査や実践の報告をしていただく場とする。

社会福祉学は、福祉問題の発見、認識、そして解決を目指す、実践的性格の強い学問である。それゆえ、実践や政策を、直接・間接の対象とした研究は多い。ところが、少なくない実践、政策のエビデンスは、あいまいなのではないだろうか。高齢化、過疎化がすすんだこの地で展開される実践、政策は、わが国における先進事例となる可能性を有している。社会福祉専門職らがそれらを優れた記録としてまとめ、それに教員らが分析を加える。例えば、こうしたことにより、実践や政策の科学的検証が前進すること期待をしている。

本論集が、大学と地域社会、社会福祉現場とのつながりをつくり、深め、そして実践的・実証的な社会福祉学研究の発展に寄与するものとなるよう努力する所存である。

2007年3月31日